

清津川に 清流を戻せないか。



池田 宏

質問

清津川は湯沢町を流れる二大河川のひとつでその源を新潟、群馬、長野県境である白砂山(2140m)に発し、延長44kmを以って十日町で信濃川に合流して日本最長の大河川となる其の支流であります。豊かな流れに銀鱗を躍らせる鮭の遡上もあつた清流の清津川でありましたが、大正12年に湯沢発電所への取水堰が完成して、毎秒6・12tの送水が開始され別水系の魚野川に放流されて以来、一変して川ではなく柳の生い茂る白川原となつてしまいました。大正時代に優先して求めた発電の対策は時代の趨勢として認めますが、人の社会が発展して変革する中で今自然の大切さが問われています。発電は大切であります、太古の川である自然を守って行

一

般

質

問

くことは更に大切であります。清流である清津川の水を取られて85年の歳月はあまりにも長く重い苦渋であります。東京電力が清津川より取水している水利権の更新期限は2005年12月31日であります。

この事についてどのよ



冬の清津川

うな対応を考えているのか伺います。

町長答弁

清津川の発電取水は大正12年から毎秒6・12t取水され、湯沢発電所と石打発電所で利用した後、魚野川に放流されて、流域の農業用水として利用

されていますが、この事により三俣取水堰直下流に於いて濁水期に水が流れず自然環境に与える影響は少なくないと認識をしています。その状況の中で東京電力は、この12月31日に水利権期限を迎えるため更新申請を行いました。清津川魚野川流域水環境検討協議会が設立され試験放流など含めて評価検証しようとして画策されていますので、その結果を踏まえて対応をして行きたいと思つています。私としても発電の確保と河川環境保護は共に大切ですが、町民の声を下流域に伝えることや水利権者の国への要望・公的機関における意見陳述なども行つてゆきたいと思つています。